

2020/07/20 (月)

朝の礼拝

聖書 マタイによる福音書20章1-18節 (新約聖書38頁)

「天の国は次のようにたとえられる。ある家の主人が、ぶどう園で働く労働者を雇うために、夜明けに出かけて行った。主人は、一日につき一デナリオンの約束で、労働者をぶどう園に送った。また、九時ごろ行ってみると、何もしないで広場に立っている人々がいたので、『あなたたちもぶどう園に行きなさい。ふさわしい賃金を払ってやろう』と言った。それで、その人たちは出かけて行った。主人は、十二時ごろと三時ごろにまた出て行き、同じようにした。五時ごろにも行ってみると、ほかの人々が立っていたので、『なぜ、何もしないで一日中ここに立っているのか』と尋ねると、彼らは、『だれも雇ってくれないのです』と言った。主人は彼らに、『あなたたちもぶどう園に行きなさい』と言った。夕方になって、ぶどう園の主人は監督に、『労働者たちを呼んで、最後に来た者から始めて、最初に来た者まで順に賃金を払ってやりなさい』と言った。そこで、五時ごろに雇われた人たちが来て、一デナリオンずつ受け取った。最初に雇われた人たちが来て、もっと多くもらえるだろうと思っていた。しかし、彼らも一デナリオンずつであった。それで、受け取ると、主人に不平を言った。『最後に来たこの連中は、一時間しか働きませんでした。まる一日、暑い中を辛抱して働いたわたしたちと、この連中とを同じ扱いにするとは。』主人はその一人に答えた。『友よ、あなたに不当なことはしていない。あなたはわたしと一デナリオンの約束をしたではないか。自分の分を受け取って帰りなさい。わたしはこの最後の者にも、あなたと同じように支払ってやりたいのだ。自分のものを自分のしたいようにしては、いけないか。それとも、わたしの気前のよさをねたむのか。』このように、後にいる者が先になり、先にいる者が後になる。」

この最後の者にも

天の国のたとえとは、神様の愛がこのように実現するというたとえ話です。ぶどうの収穫の時のことでした。ぶどう園の主人は夜明け前から出かけて、1日1デナリオンで労働者を雇いました。

その後も9時、12時、3時、5時と広場へ出かけては労働者を雇いました。夕方なって、主人は最後に来た人から順番に1日1デナリオンの賃金を払いました。

最初に来た人はもっともらえるだろうと思って見ていましたが、1デナリオンでした。彼らは主人に不平を言いましたが、主人は不当なことはしていない、約束通りではないか、最後の者にも同じようにしてやりたいのだ、と言うのでした。

主人は神様です。1デナリオンは当時の1日の賃金、生活費です。神様はどれだけ働きがあるのかを比較しているのではなく、誰もが今日一日に必要なものを分かち合うようにと願っているのです。

(しばらく黙祷しましょう)

祈禱 祈りましょう

わたしたちを愛し、励まされる主よ。あなたはすべての人が今日一日に必要なものが与えられるようにと願っておられます。どうか私たちが互いに助け合い、神様の愛を実現し、共に感謝できますように。今日一日もすべてをあなたに委ね、よき学びの時を過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いします。アーメン